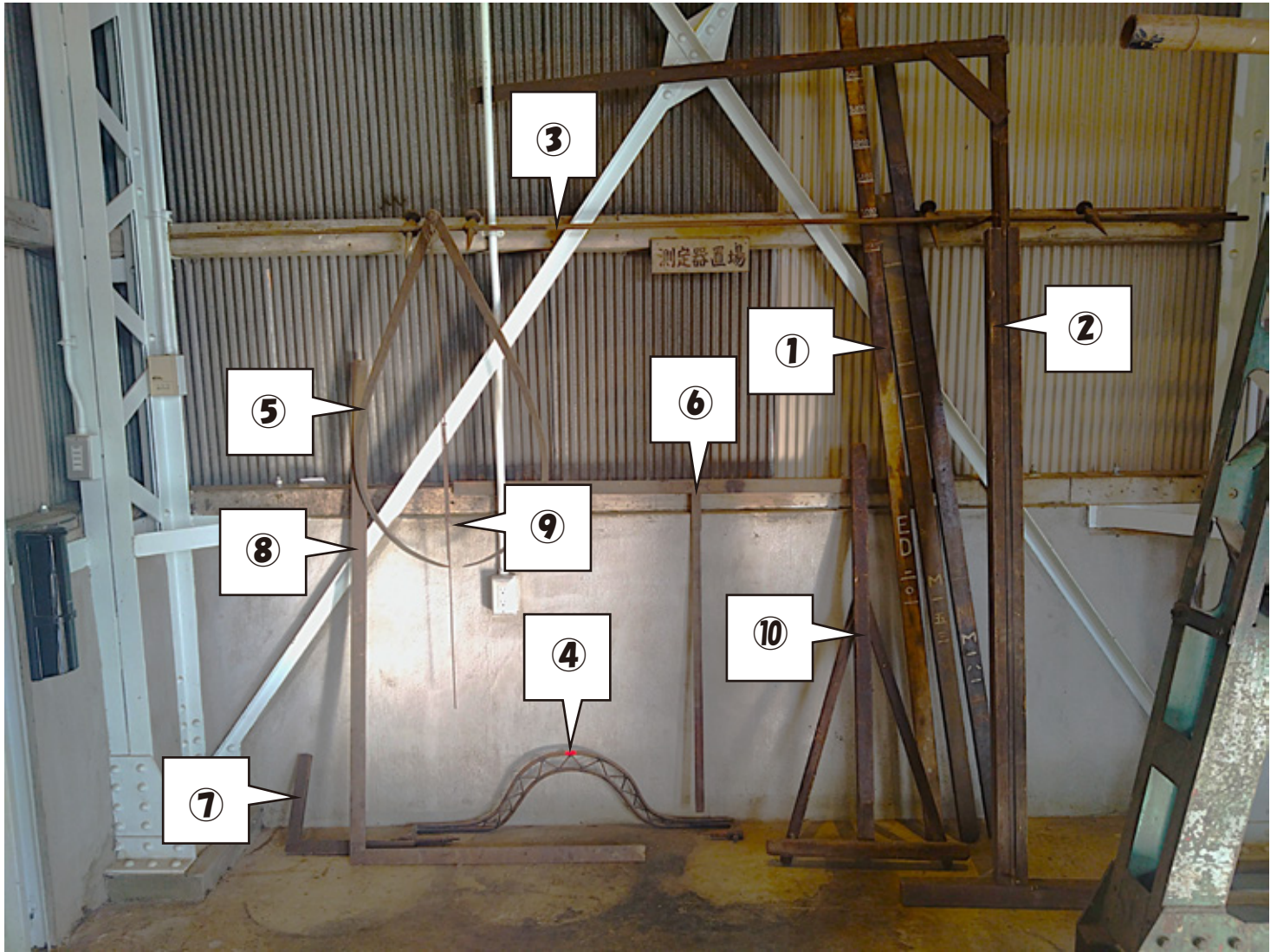


色々な用途の測定器



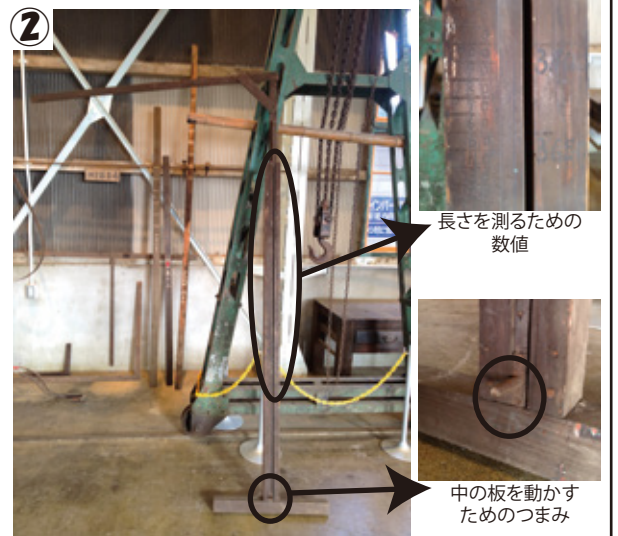
パンタグラフ関係

①パンタグラフ測定器

特定の車両専用のパンタグラフ測定器です。それぞれ車両名と高さを示す数値が記されています。車両ごとに高さが違うため、それぞれの車両に合わせて測定器となっています。

②パンタグラフ測定器か？

中央にメモリがあり、つまみを上下に動かすことができます。当時使用していた話はまだ聞かれていないため、その明確な用途については不明ですが、記された数値やその形から、パンタグラフの測定に使用されたと思われる。



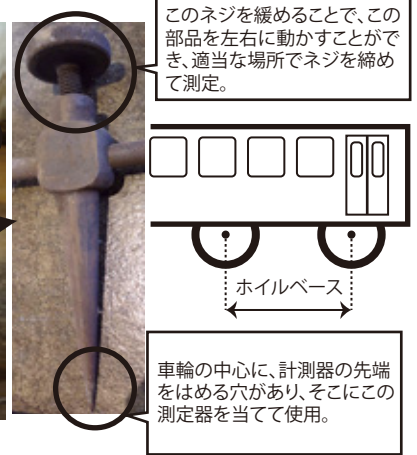
車輪関係

③ 電車用ホイールベース測定器

これは、列車についている車輪の前後の間隔(ホイールベース)を測定するための道具です。

丸で囲んでいる部品の上にあるネジを緩めて左右に動かし、先端のとがった部分を、車輪の中心にある穴に差し込むことで、車両のホイールベースの間隔を測定することができます。この作業は2人1組で行っていました。

なお当館には、大きさの違う2種類の測定器があります。



④ 電車車輪用測定器

これは、電車の車輪の直径を測るための道具で、栗原電鉄時代に使用されていました。

車輪は列車が毎日走行することで、少しずつ削れて小さくなります。そのため現役時代は、車輪が削れた分を鍛冶場で盛金(溶接)し、工作機械の旋盤で形を整えていました。そして、車輪が適切な大きさかどうかの測定に、この道具が使われました。



⑤ バッテリーカー車輪測定用パス

これは、細倉鉱山で使われていたバッテリーカーの車輪の直径を測るための、パスという道具です。上下を開いて測りたい部分に当て、その開き幅で測定をします。

バッテリーカーは、列車よりも車輪が小さいため、④の測定器が使えませんでした。そのため、こちらの道具を使って車輪の直径を測っていました。



連結器関係

⑥ 連結器高さ測定器

これは、車両の先端についている連結器の高さを測るものです。T字の真ん中の線の部分にメモリが付いています。

これは、以前こちらで働いていた整備士の手で作成されており、溶接した痕も見ることができます。

(詳しい用途については、くりでんアレコレ第2号、続2号をご参照ください)



測定器に記された数値。
連結器の高さの標準数値は880。



手作りされた痕跡。
付け根の部分が盛り上がり、上部と下部の金属の太さが異なっている。

その他... これらは、どのように使用されたかはっきりわからない道具です。



次回予告

細かな作業のための手仕上げ作業工具

※測定器の名称は便宜上学芸員が付けたものですので、その点はご了承ください。

【くりでんミュージアムへの問い合わせ】

TEL:0228-24-7961

FAX:0228-24-7962

メールアドレス:info@kuridenpark.com